

トーステン・ヴィーゼル博士が旭日大綬章を受章 —在スウェーデン日本大使公邸で勲章伝達式が行われる—

OIST運営委員会共同議長のトーステン・ヴィーゼル博士（ロックフェラー大学名誉学長、1981年ノーベル生理学・医学賞受賞）が、2009年秋の叙勲で旭日大綬章を受章し、去る12月14日に在スウェーデン日本大使公邸において勲章伝達式が行われました。

ヴィーゼル博士の受章理由として日本政府は、日本が提唱した国際共同研究プログラムの推進及び発展に寄与したことを挙げ、同博士が2000年4月～2009年6月まで務めた国際ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム推進機構（HFSP）事務局長としての功績を称えました。

伝達式には、ヴィーゼル博士と同博士の家族、カロリンスカ研究所関係者及び大使館関係者が参加しました。中島明大使より勲章を伝達されたヴィーゼル博士は、まず式典の開催に対して謝辞を述べるとともに、博士自身が活動を行うにあたり、これまで長きにわたり文部科学省及び経済産業省より多大な援助及び支援を得ていることに感謝の意が述べられました。同博士はHFSPについて、日本がイニシアティブをとって設立し、財政的な貢献を行ってきた団体であり、国際的な研究ネットワークの構築に貢献した大変優れたユニークな組織であると評しました。また、同博士は沖縄科学技術大学院大学についてふれ、沖縄という地理的には離れている場所に科学技術研究の中心となる研究所を設立する大変意欲的な試みであり、その設立準備を進めているOISTの運営委員会共同議長に有馬朗人元東京大学総長とともに就任し、お手伝いしている、この意欲的な試みが成功することを信じている、と述べました。

ヴィーゼル博士の受章にあたり、OIST理事長のシドニー・ブレナー博士はお祝いの言葉を寄せるとともに、科学の世界において国際的な協力体制がより一層重要度を増していることをとりあげ、ヴィーゼル博士がHFSP事務局長として、また沖縄科学技術大学院大学の設立準備等、OISTの業務について提言をする運営委員会の共同議長としての役割を通じて、研究の質と若手研究者の機会に重きを置いた国際協力体制の構築に多大なる貢献をしていることに感謝の意を述べました。



ヴィーゼル博士と中島大使



大使公邸での式典のようす

1924年スウェーデン生まれ。ストックホルムのカロリンスカ研究所にて医学の学位取得後、米国ジョンズ・ホプキンス大学スクール・オブ・メディシン、ハーバード大学メディカルスクールを経て、1971年同メディカルスクールの神経生物学部部長に就任。1981年ノーベル生理学・医学賞受賞。1983年ロックフェラー大学教授、1991-1998年同大学大学長を務める。2000年4月～2009年6月には、1987年のベネチア・サミットにおいて、日本が提唱したヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム推進機構の事務局長を務める。2002年9月 OIST の BOG 委員、2006年12月より同共同議長。



トーステン・ヴィーゼル博士